



よし き 義稀ちゃん(平成16年7月3日生)
両親=飯島忠義・久枝さん(二)
「トン!トツ!!トン!!!」
「ぶっちは、太鼓が大好きです。」

とも や 智也ちゃん(平成15年6月9日生)
両親=加瀬義則・なぎささん(二)
「公園大好き!」
「ブランコ、太、太、だーい好き!」



さくらちゃん(平成17年8月2日生)
両親=林耕一・映子さん(二)
「私の名前は、さくらです。」
「お姉ちゃんが付けてくれました。」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。対象は、小学校入学前の幼児です。
申込用紙は、保健センター、海上保健福祉センター、飯岡保健福祉センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室 ―旭モノ語り― 第八回 椿新田濫觴記

昨年の十月に旭市の花に選ばれたツバキですが、これからの開花シーズンに合わせ、今回はこの由来を伝える資料を取り上げたいと思います。椿海は東西約十二キロの湖、面積にして約4,300ヘクタール、それを新田に変える大事業、それが椿新田開発です。干拓自体は江戸初期に行われました。

「椿新田濫觴記」は江戸中期に書かれた開発記録。「濫觴」とは物事の始まりという意味です。干拓にいたった経緯、当時の様子、工事の状況や問題等が記されています。冒頭には、椿海について次のように書かれています。

かつて神様が国をつくるときに、その境に三十三本の椿を植えました。そのうちの一本、下総国の椿は古木で、香取・海匝・匝瑳の三郡に枝葉が及び、常に黒雲に覆われていました。これは鬼が住みついて悪さをしているためだとわかり、この土地の二人の神様が弓矢で鬼を退治することにしました。鬼はたまたず東南の沖へ退散、同時に椿も一緒に根こそぎ飛んでいったのですが、そのとき枝が九十九本あったため、その下方は九十九里と呼ばれ、また神が矢を射った場所は、矢指ヶ浦と呼ば



れるようになりました。そして、椿の抜けた跡は湖となり、椿海と名づけられたということです。

この伝説が、当時から湖の名前の由来として語られていたのでしょうか。実際の湖は、土地の隆起による海岸の後退により、低地に取り残されてできた海跡湖といわれています。

さて、この開発記、作者は不詳ですが、冒頭のこの伝承部分を除けば、難航する工事、干拓後の深刻な干水害、村々の対立など、実に厳しい現実的な記述が綴られています。ほかにも「干潟開発記」「椿新田由来記」など、こうした記録は数種類が伝えられています。くわしくは「旭市史第一巻」「海上町史特殊史料編」をご参照ください。実物は大原幽学記念館で展示しています。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

編集後記

一日ごとに日足が延び、暖かくなるのを感じられる季節になりました。暖かくなってくるだけで、気持ちにも少しだけ余裕が出てくるような気がします。これからの季節、楽しみなもののひとつに桜の花があります。市内では袋公園をはじめ、萬歳自然公園やそのほかの場所でも大勢の人の目を楽しませてくれます。桜のほかに、季節に合わせて楽しめる場所はたくさんありますので、春の風と一緒に、お気に入りの場所を探してみたいかがでしょう。(S)

暮らしのカレンダー

8日(水)	旭農業高校・東総工業高校卒業式
9日(木)	旭中央病院附属看護専門学校卒業式
11日(土)	干潟中卒業式
14日(火)	海上・飯岡中卒業式
15日(水)	一中・二中卒業式
	市県民税、所得税の申告受付締切
17日(金)	鶴巻・滝郷・豊鳴・三川・飯岡・中和・萬歳・古城小卒業式
21日(火)	春分の日
22日(水)	琴田・干潟・富浦・矢指・共和・豊畑小卒業式
23日(木)	中央小卒業式